

2003年 5月21日 水曜日

【企画制作】株式会社エヌ・エヌ・エー  
〒1050004 東京都港区新橋3丁目2番地2号  
電話 03(5500)3717 FAX 03(5500)3719  
【ZNAはメディア活動を通じて海外邦人へ安心と安全を届けます】

【発行】  
香港麗亞洲信息网络有限公司台湾分公司  
105台北市松山区慶城街6之1號705室  
電話 02(2545)12331 FAX 02(2545)42272

# 「チャイナリスク」に恐々

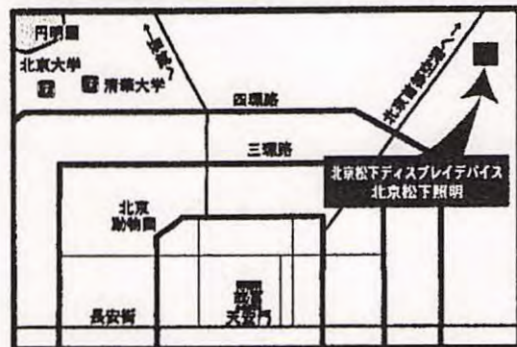
## 松下・北京工場の停止

# 分散生産に現実味

松下電器産業の北京工場の操業停止は、中国一辺倒投資の裏にある「チャイナリスク」の深さを明らかにした。同社は21日、プラウン管生産のマレーシア工場代替について検討着手したが、一方で操業停止が10日〜2週間で終了するとの見通しもあり、代替生産はかろうじて回避されそうな気配。だが、今回のSARSによる緊急事態は、他社にも共通するリスクだけに、この問題をめぐる日系企業の懸念は大きい。

従業員のSARS感染で操業停止に追い込まれた松下の現地法人2社は、北京市の東北部の一角にある。日系企業が集中しているのは、同じ郊外でも東南部の北京経済

技術開発区。ここには820社が進出、うち外資企業が226社で、総投資額は24億1000万米ドルとなっている。操業停止のニュースは、この開発区に瞬時に伝わったという。



松下は中国全土で42の生産拠点をもち、販売会社などを含めると53社。その商品売上高は05年までに1兆円に拡大させる方針だったが、SARSによる操業停止は最も警戒するところだったという。(東京本社広報課)

松下の中国進出は80年代だったが、89年の天安門事件で中国が大揺れとなった時期でも撤退せ

ず、中国当局から大きな信頼を得たことでも知られていた。SARS禍は、天安門事件以降、最も中国の威信を傷つけることになったといえるが、それに巻き込まれた松下の打撃は大き過ぎた。プラウン管生産をマレーシア工場に一時移管する方針がいち早く打ち出されたのも、それをよく物語る。だが、同社では中国の操業停止は10日〜2週間程度とみており、月内には再開されそう。従ってマレーシア工場で生産される事態にはならないとの観測が有力だ。

「中国の二面性は、予想していた。何か事態が発生すれば副作用が大きい。SARS対策も、中国当局が地盤固めに使うことはあっても、進出企業に向けた改革に結びつけるとは考えられない」  
そう語るのは、貴州省に進出工場を持つ企業の東京本社関係者だが、

「現地に問題は起きていない。注意深く見守っているが、現時点では操業停止などの心配はまったくしていない」といっている。

国際社会学者の中嶋嶺雄氏(前東京外国語大学学長)の意見はもつと鋭い。「日系企業の対中投資は80年代に始まったが、経済成長率オンリーできた中国の実態をあまりにも知らなすぎた。売血が盛んな農村地帯ではエイズがひどいし、リスクだらけだ。今後、日系企業の投資減少は避けられないだろう。台湾派といわれる同氏だけに、NNAの電話取材に厳しい見方を示した。  
しかし、一方で「そんなに心配していない」という企業もある。京セラ(本社・京都)だ。同社は上海、東莞、天津などに工場と販売会社を持つが、SARSには早い時期から対策を講じていた。

**五行庵**  
子を捨てて  
夫を捨てた  
友からの電話  
声に  
酒の匂いがする  
伊東 柚月  
ご投稿お待ちしております  
e-Mailでどうぞ  
ucan@nna.jp  
NNA